

2. 万葉歌人が愛した名所をめぐる道

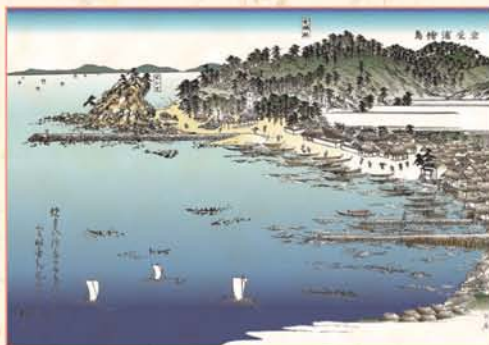
万葉の時代から人々に愛されてきた淡路島には名所・景勝地が点在していますが、とりわけ岩屋浦付近には、和歌の題材になった名所が集まっています。岩屋浦は淡路島の玄関口であったため、貴族をはじめ多くの人々が訪れたのです。当時の面影を残す名所をめくり、和歌に込められた歌人たちの想いを感じてください。



絵島

淡路島名所今昔物語 「岩屋浦絵島」

『淡路国名所図絵』に描かれた「岩屋浦絵島」からは、当時の岩屋浦の活気が手に取るように伝わってきます。浜辺には舟が何艘も止まり、人々がにぎわっています。そんな港の傍らには、印象的な造形の絵島が誇らしげに描かれています。



淡路国名所図絵より「岩屋浦絵島」

風景街道ルート図



シーニックコース



● 絵島



一説にはオノコロ島とも言われ、古くから景勝地として人々に愛されています。特に夜景が美しく、西行法師は「千鳥鳴く絵島の浦にすむ月を波にうつして見るこよいかな」という歌を詠みました。島に渡ると、県の郷土記念物に指定されている褐鉄鉦沈殿砂岩層に直にふれることができます。

滞在時間：約30分

● 松帆の浦



淡路島の最北端に位置する浜辺です。かつては明石海峡を渡る舟が、ここで風待ち・潮待ちをしたといいます。

藤原定家は「来ぬ人を松帆の浦の夕風に焼くや藻塩の身もこがれつつ」という歌を詠みました。「松帆」は「待つ帆」の転訛だともわれています。

滞在時間：約15分

● 美湯松帆の郷



P **♿** **♿** **♿**
明石海峡を望む高台に位置する温泉施設。露天風呂からは明石海峡大橋とその下を行き交う船の風景を楽しむことができ、大橋がライトアップされる夜の景色は特に美しく、必見です。神経痛や筋肉痛などに効果がある単純弱放射能低温泉で、旅の疲れを癒してみては？
滞在時間：約60分

● 鳥ノ山展望台



往古はここで烽火を焚き、明石から迎え舟を呼びました。「淡路島通うしるべもたつ煙霞にまがふ須磨の明けぼの」寂蓮法師。
滞在時間：20分



● 開鏡山観音寺



約1170年前、弘法大師が開基したと伝わり、現在は淡路西国三十三ヶ所霊場の結願所として知られます。本堂の裏山の頂上に、大師が祀ったという三宝荒神があります。毎年1月第3日曜には400年の歴史をもつ湯立て神楽が行われ、煮えたぎる釜の湯を笹の葉を使って浴び、無病息災が祈願されます。
滞在時間：約30分

● 石屋神社



P
建武3年(1336年)楠正成が湊川で討死した時、日頃信仰していた八幡のご神体と軍扇を安全な地へ奉祀しようとしたのが起こりだという伝説があります。春分・秋分の日には、社殿で鳥居の中央から昇る日の出を見ることが出来ます。また淡路に3つしかない、干支をあしらった方位磁石が見られます。
滞在時間：約30分

風景の味わいかた その2

● 絵 島

絵島は、元は陸つづきでしたが明石海峡の荒波に削られ、島になったといわれます。褐鉄鉱沈殿砂岩層の岩肌は古くから人々に愛されてきましたが、特に月夜の晩はすばらしく、かの西行法師も

「千鳥なく 絵島の浦に すむ月を 波にうつして 見るこよひかな」という歌を詠みました。また絵島は、国生み神話に伝わる「オノコロ島」であるともいわれている神秘的な島です。



一 聴く ● 絵島に打ち寄せる波の音

聴く

絵島に渡り、絵島に打ち寄せる波の音を聴いてみよう。波が絵島を削った長い歳月に思いを馳せよう。



二 触れる ● 褐鉄鉱沈殿砂岩に触れてみる

触れる

県の郷土記念物である褐鉄鉱沈殿砂岩層の岩肌に触れてみよう。不思議な模様や凹凸を感じてみよう。



三 香る ● やわらかな潮風の香り

香る

海に面したベンチに座り、絵島の浮かぶ入江に吹き込む、やわらかい潮風の香りを楽しもう。



四 味わう ● 岩屋ポートパークで味わう特産品

味わう

岩屋ポートビルの売店で、地元の特産品を購入し、岩屋ポートパークのベンチで絵島を眺めながら味わおう。



五 見ると ● 岩屋ポートパークから望む絵島

見ると

岩屋ポートパークの広場に立ち、絵島を眺める。美しい模様や、周囲の山水との調和を楽しもう。



六 感じる ● 絵島の神秘を感じると

感じる

往古から多くの人に愛されてきた絵島の神秘的な魅力を感じよう。

